

第48回地球大学アドバンス 2012.1.23 (月)

[コミュニティ・セキュリティの再構築] シリーズ⑧

感染症と文明—共生への道

ゲスト

山本 太郎 氏

長崎大学医学部・熱帯医学研究所教授

企画・司会

竹村 真一

京都造形芸術大学 教授 Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー

また新型インフルエンザの流行が心配な季節がやってきました。

100年近く前の新型インフルエンザ「スペイン風邪」は、世界中で数千万人の死者を出し、第一次大戦の終結を早めました。

しかし現在は人口も増えて都市も高密度化し(満員電車という高効率の感染カプセルもあります!)、さらに数時間で感染者を地球のあちこちに運ぶ航空機ネットワークにより、地球規模のパンデミック(感染爆発)のリスクが100年前とは比較にならないほど高まっています。また感染が復活しつつある結核、地球温暖化とともに感染域が日本にも近づきつつあるデング熱、あるいはエイズなども含め、感染症対策は人類社会にとって最重要のリスクマネジメント課題の一つと言えるでしょう。

では、その究極の対策は?近代医学は「病原菌の撲滅」と衛生環境の向上に邁進してきましたが、名著「感染症と文明」(岩波新書)の著者・山本太郎教授は、ウイルスや病原体の「撲滅・根絶」がその解ではないと説きます。

そこで展開されるのは、地球環境(生態系)と人間社会と病原体をトータルな「共生系」として捉え、その共生のバランスを探ろうというポスト近代の新しい医学思想。そして、ヒトへの適応過程にある(=次第に致死的な病気を発症しなくなり人類と共生しつつある)病原体の存在は、新たな病原体に対する「防波堤」の役割も果たす——従ってその「根絶」「消滅」は人類の防波堤の廃棄ともなる。

思えば人間も、人間だけで生きているわけではない。我々は腸内や皮膚や遺伝子のなかの多様な微生物との共生系であり、地球生態系とのつながりのなかの動的平衡(異種間コミュニケーションの系)として存在しています。そんな人類にふさわしい新たな医学・健康思想を、文明史的な観点から感染症を研究されてきた山本教授に伺います。あわせて新型インフルエンザなどの感染症対策について、企業の取組みも紹介します。

開催概要

日時: 2012年1月23日(月曜日)

18:00 受付開始 / 18:30 開演 / 20:30 終了

企画・司会: 竹村真一

Earth Literacy Program 代表
エコツェリア・コンテンツプロデューサー
地球大学アドバンス 総合企画・コーディネーター
京都造形芸術大学教授

会場: 新丸ビル10階「エコツェリア」

地図: <http://ecozeria.jp/access.htm>

定員: 50名(先着順: 定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法: 事前登録が必要です 以下のURLからお申し込みください
<http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費: 2000円

ただし、エコツェリア会員企業に所属の方は無料です
(照会いたしますので、名刺または社員証をお持ちください)

地球大学アドバンスとは？

竹村真一がモデレートする、地球環境に関するさまざまな問題や解決法を議論しながら、21世紀の新たな地球観を提示するセミナーです。環境・資源・生物多様性・まちづくりなど、さまざま分野の第一線で活躍する研究者や実務家をゲストに招き、毎回、2時間にわたって発表と参加者のみなさまも交えた討議を行っています。2007年から毎月一回、新丸ビル10階のエコツエリアで開催されており、今年度までに40回を超えるセミナーが開催されています。

2011年度[コミュニティ・セキュリティの再構築]シリーズとは？

地球大学アドバンスは年度毎にテーマを設定しており、今年度は[コミュニティ・セキュリティの再構築]がテーマです。

このテーマは、3.11東日本大震災が露わにした、現代社会の潜在的な脆弱性とリスクを明らかにしながら、日本社会、特に私たちが住んでいる東京の自己変革の方向性を討議するために設定しました。扱う内容は、起こりうる災害の規模と対策、ポスト原発時代のエネルギー安全保障、帰宅・通勤困難者問題、減災情報システム、都心部のタウンマネジメントとコミュニティ・セキュリティデザインなどです。また、地震や津波に対する防災・減災だけではなく、今後の気候変動や資源制約への適応力も備えた“変動に強い都市と国家を再構築する”という広い視点も、このテーマに含まれています。

過去の地球大学アドバンス[コミュニティ・セキュリティの再構築]シリーズのタイトルとゲスト

詳細はWEB [<http://www.ecozzeria.jp/earth/>] をご覧ください。

第41回 2011.6.30(木)

2011年度基調講演 “3.11から未来へ”

基調講演：竹村 真一

第42回 2011.7.25(月)

首都圏大震災— 予防減災への課題

ゲスト：高嶋 哲夫氏(作家、『M8』『TSUNAMI』『東京大洪水』『巨大地震の日』(全て集英社)など執筆)

第43回 2011.8.22(月)

“3.11”後のエネルギー政策をめぐって

ゲスト：植田 和弘氏(京都大学大学院経済学研究科・大学院地球環境学教授)

第44回 2011.9.26(月)

企業の災害対応能力とBCP(事業継続計画)

ゲスト：山村 武彦氏(防災・危機管理アドバイザー 防災システム研究所所長)

第45回 2011.10.24(月)

日本経済再生計画— 震災とデフレを超えて

ゲスト：藻谷 浩介氏(日本政策投資銀行 参与 『デフレの正体』著者)

第46回 2011.11.28(月)

待ったなし!食糧安全保障—“食糧争奪”の現在

ゲスト：柴田 明夫氏(資源・食糧問題研究所 代表 『食糧争奪』著者)

第47回 2011.12.19(月)

東北の食と農—21世紀型の生命地域産業の創生にむけて

ゲスト：藤田和芳氏(大地を守る会 会長), 楠本修二郎氏(カフェ・カンパニー(株) 代表), 古田秘馬氏(六本木農園 代表)

地球大学講義録 発売中!

竹村 真一+丸の内地球環境倶楽部
日本経済新聞出版社 刊
ISBN: 978-4532167967

石油にも原発にも依存しない21世紀のエネルギー安全保障をどうデザインするか? 洪水や津波、海面上昇…沿岸の低い土地に大都市が集中する日本の水害リスクにどう対処するか? 3人に1人が高齢者となる時代、交通弱者や災害弱者を増やさない都市と社会のあり方とは? エネルギー、気候変動から都市災害、水と食、生物多様性まで、第一線の専門家・実務家をゲストに行われた、地球大学の講義ライブを一冊に。

